



rengō aichi kawaraban

# 連合愛知

かわら版  
2020.3

日本労働組合総連合会愛知県連合会【連合愛知】かわら版 2020.3 臨時号

## 働く者を尊重する社会の実現に向けて!



2020春季生活闘争総決起集会を開催



私たちが未来を変える!  
すべての労働者の「底上げ」「底支え」  
「格差是正」と働き方の見直しで!

連合愛知は、2月26日(水)に『私たちが未来を変える!すべての労働者の「底上げ」「底支え」「格差是正」と働き方の見直しで!』をスローガンに、2020春季生活闘争総決起集会を開催しました。

これからヤマ場を迎える2020春季生活闘争において、要求実現と機運の盛り上げをはかるために行われたこの集会は、例年通り屋外での大規模集会を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の国内発生を踏まえた対応として、急遽ワークライフプラザあおににおいて、連合愛知三役・執行委員・構成組織・地協の参加のもと開催しました。

冒頭、佐々木会長より、新型コロナウイルスの脅威に対し、労使で感染予防並びに感染拡大抑止に向けた対応の検討について徹底することをお願いしたうえで、春闘に向けて「①分配構造の転換につながり得る賃上げの取り組みおよび付加価値の適正分配による取引の適正化②多様な働き方を整え、安心・安全で働きがいのある職場の構築③健全な集団的労使関係を一つでも多くの職場に広げるための組織拡大の取り組み強化」について挨拶がありました(詳細P2)。

続いて、畠副会長が「集会アピール」を読み上げ参加者全体の総意で採択し、木戸副会長の発声によるガンバロー三唱で、春闘勝利への意思固めを行いました。



木戸副会長によるガンバロー三唱



## 佐々木会長あいさつ



本年の春闘を取り巻く環境は、米中貿易問題などにより中国をはじめとする世界経済の減速が進行しつつあり、更には新型コロナウイルスの影響で足元を始め先行きが不透明であり深刻さが増してきています。国内では、中国経済の減速の影響が出始めており、2019年10—12月の実質成長率は5四半期ぶりのマイナス成長となりました。設備投資の落ち込みに加えて、消費税の引き上げの影響などにより、從来から力強さを欠いていた個人消費も更に落ち込んでいるといった状況にあります。こうした環境下だからこそ、個人消費の拡大によって企業活動が活性化される正のスパイラルによる経済成長が必要です。

賃金は、労働の対価であると同時に、経済や社会基盤を支える財源でもあります。経済の自立的成長・社会の持続性を実現するためにも継続した賃金の引き上げが不可欠です。連合は、これまでの間「底上げ春闘」に取り組み一定の成果を出してきたものの、賃上げのうねりは未だ社会全体に行きわたっていないのが現状です。こうした認識のもと、本年も引き続き賃上げに取り組み社会全体へ波及させていかなくてはなりません。

本年の春闘のポイントを3点申し上げます。

1点目は、内需の拡大による経済の自立的成長と社会の持続性を実現するために、分配構造の転換につながり得る賃上げに取り組むことです。この20年間、雇用者報酬は横ばいであるのに対し、企業の内部留保は2倍近く膨れ上がっており、企業の存続・発展に不可欠な人への投資に踏み込んでいません。公正な分配を実現するためには、これまで労使で共有してきた「生産性3原則」に基づき、労使が異なる立場から労働条件の向上のみならず、経済や産業・企業の置かれた状況などを共有し、生産性向上と生み出した成果の公正な分配をめざした労使の協議が必要です。生産性三原則に基づき徹底した労使協議が実施できるよう、それぞれの単組へのサポートをお願いします。

更には、雇用者の7割が働いているという中小企業で働く仲間の賃上げの原資を確保するためにも「取引の適正化」が重要です。連合は、2016年からこの取り組みを進めていますが、政府機関や多くの経済団体も応じて取り組んでいるものの、未だに悪しき商慣行が横行し、

中小企業にしづ寄せがいっているといった状況にあります。「サプライチェーン」の各段階で生み出された付加価値をそれぞれの段階で適正に評価し、各段階に利益を残し、それを原資として「人への投資」や「設備投資」を実現する為にも付加価値の適正分配が不可欠です。労働組合の立場でも労使協議のテーマに取り上げるなど、本年の春闘期に取り組んでいただこうことをお願いします。

2点目は、すべての労働者の立場に立った働き方の実現です。現在多くの職場で人手不足などを背景として長時間労働の常態化が課題となっており、働くことによって健康を害する労働者が増加傾向にあり、由々しき事態となっています。また雇用形態の違いによる不合理な賃金や労働条件の格差など、働き方そのものにも大きな課題があります。本年4月には働き方改革関連法が本格的な施行を迎えます。「時間外労働時間の上限規制」の中小企業への適用、「同一労働同一賃金」への対応など法令順守はもちろんのこと、企業規模、雇用形態に関わらず、多様な働き方を整え、安心・安全で働きがいのある職場の構築に取り組んでいただくことをお願いします。

3点目は、春闘の取り組みを社会の隅々まで行き渡らせることです。社会や経済情勢が日々変化していく中で、日本における賃金決定メカニズムとしての春闘を再認識する必要性が高まっています。春闘は組織内だけではなく、すべての働く者の取り組みとしなくてはなりません。そのためにも健全な集団的労使関係を一つでも多くの職場に広げていくこと、いわゆる新しく労働組合をつくっていく取り組みにも注力しなくてはなりません。労働組合の存在感が大きくなる春闘の期間を通じて、組織拡大の取り組みを更に強化していきます。

最後に、先行きが極めて不透明な状況にありますが、本年の春闘を通じて働く者が元気になるように連合愛知56万人が結束して取り組んでいく、このことを確認し、今後本格化する春闘に向けて連帯の挨拶とします。



## 連合愛知 春季生活闘争総決起集会アピール

畠副会長による  
集会アピール

連合愛知は、本日ここに『私たちが未来を変える!すべての労働者の「底上げ」「底支え」「格差是正」と働き方の見直しで!』をスローガンに、2020春季生活闘争総決起集会を開催した。

日本経済について政府は、緩やかな回復基調にあるとするが、いまだに多くの働く者が回復を実感できていない。連合は、これまでの間「底上げ春闘」を掲げ、一定の成果を出してきた。この流れを止めることなく賃上げのうねりを広げ、社会全体のものにしていかなければならない。そのためには、分配構造の転換につながり得る賃上げが必要である。

また、引き続きサプライチェーン全体で生み出した付加価値の適正分配に取り組み、とりわけ賃金水準の追求にこだわるとともに、すべての働く者に対するセーフティネットを強化していく。加えて中小組合や有期・短時間・契約等で働く仲間の賃金を「働きの価値に見合った水準」へと引き上げていく取り組みを進める。

本年4月から中小企業へも時間外労働の上限規制が適用されるなど、働き方改革が本格化していく。同一労働同一賃金の実現に向けては、法令遵守はもとより、個々人の状況やニーズに合った多様な働き方を選択できる仕組みを整え、安心・安全で働きがいある職場の構築に取り組んでいく。

また、働く者を「労働力」ではなく「人」として尊重する社会の実現に向けては、労働組合自らが仲間を増やし職場や地域で集団的労使関係を拡大していくことが重要である。連合愛知は、弱い立場で働く者を守るために取り組みに56万人組織の総力をあげる。

そして、社会の不条理や企業規模・雇用形態・男女間による格差を是正し、すべての働く者・国民の生活の底上げがはかられるよう、積極的に社会に発信し行動していく。連合がめざす「働くことを軸とする安心社会ーまもる・つなぐ・創り出すー」の実現に向け、すべての働く仲間とともに最後まで果敢に闘い抜くことをここに宣言する。

2020年2月26日  
連合愛知2020春季生活闘争総決起集会



あなたの「いいね」が  
社会に向けた世論喚起につながり、  
あなたの「シェア」が大きな力となります!



連合愛知30周年特設サイト  
30周年記念事業に関する  
内容を掲載しています

連合愛知ホームページ  
連合愛知の活動紹介、ブログ、  
各種資料データなどを  
掲載しています。  
ぜひ、ご覧ください。

